

「明日を拓く岩手の絆」

令和3年度 第59回岩手県小学校長会総会

会報

第310号

岩手県小学校長会
代表 小山田 秀次
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



第五十九回岩手県小学校長会の総会が、四月二十三日（金）、県下各地区から二百八十二名の会員（会員総数二百九十八名）が出席し、都南文化会館（キャラホール）で開催されました。今般の情勢を鑑み、今年度も、半日での開催となりました。総会で選出された小山田秀次会長（仁王小学校）は、「明日を拓く 岩手の絆」をしっかりと心に刻み、先が見えない状況であるからこそ、先達の教えや震災等を通じた学びを確かな教育的視座として継承するとともに、会員相互の情報共有・連携を大切にしたい取組を推進することを誓い合いたいと訴えました。総会の内容は、次のとおりです。

総会Ⅰ

- 一 開会のことば 佐々木眞也（宮古）
- 二 国歌斉唱（拝聴）
- 三 会長代行挨拶 小山田秀次会長代行
- 四 感謝状・記念品贈呈 退会者五十六名
- 五 退会者・退任者代表挨拶 太田勝浩氏
- 六 来賓祝辞
 - (一) 岩手県教育委員会 教育長 佐藤 博氏
 - (二) 岩手県市町村教育委員会協議会 会長 千葉仁一氏
 - ※ 代読 副会長 佐美 淳氏

総会Ⅱ

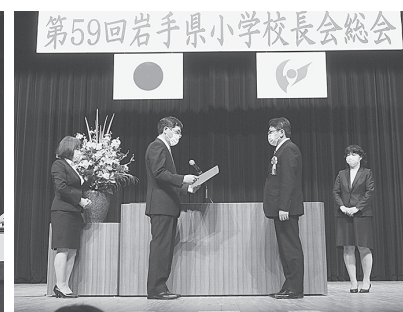
- 七 岩手県教育委員会行政説明
 - (一) 教職員課首席経営指導主事 兼 兼務小中学校人事課長 金野 治氏
 - (二) 学校教育室首席指導主事 兼 義務教育課長 三浦 隆氏
 - 八 被災地状況報告 及川靖浩（釜石）
 - 九 議長選出・署名委員委嘱・書記任命
 - 十 報告
 - 十一 議事
 - 十二 新役員挨拶
 - 十三 閉会のことば 船田 浩（和賀）
- ※閉会後に、理事・評議員合同会議並びに各専門部の合同会議が開催されました。



被災地状況報告



総会提案



感謝状贈呈

創意と継承

子どもたちの笑顔と希望のために



岩手県小学校長会

会長 小山田 秀次

木々の葉が緑に染まりはじ
め、季節は春から初夏へと移
り変わろうとしています。

本日ここに、岩手県教育委
員会教育長 佐藤博様、岩手
県市町村教育委員会協議会副
会長 佐美淳様をお迎えし、
関係各位のご理解のもと、二
年ぶりに会員が一堂に会し、
第五十九回岩手県小学校長会
定期総会を開催できますこと
に深く感謝申し上げます。

この三月をもって本会を退
会されました五十六名の校長
先生方には、岩手の教育界に
多大なるご尽力とご貢献をい
ただきましたことに深く敬意
を表するとともに、私ども後
輩への温かいご指導に対しま

して心から御礼申し上げます。
す。特にも昨年度は、コロナ
禍において、子どもたちの学
びの保障に向け、強いリー
ダーシップのもとに学校経営
をされたり、校長会を牽引し
てくださったりしたそのお姿
は、私どもの師表でありまし
た。

また、新年度の幕開けとと
もに、新たに五十四名の校長
先生方をお迎えいたしました。
誠に心強く感じておりまし
す。新会員の皆様には、これ
までの豊富な教育実践を生か
し、学校経営の責任者とし
て、保護者、地域とともに、
子どもたちに「生きる力」を
育むため、持ち前のお力を存

分に発揮されますよう、ご期
待申し上げます。

さて、東日本大震災の発災
から十年の年月が経過いたし
ました。岩手県小学校長会
は、これまで、あの震災津波
を決して忘れることなく、
「いわての復興教育の推進」
が私たち校長の使命であると
の認識のもとに、会員の総力
を挙げて取り組んで参りまし
た。

本年も、各地区・学校の実
情に応じながら、「命の尊
さ」を学校経営の根幹に据
え、郷土を愛し、復興・発展
を支える「ひとづくり」の取
組が確実に進められているも
のと存じます。

一方で、沿岸被災地区にお
いては、校舎や校庭などの環
境は整備されたものの、子ど
もたちの心のケアや地域との
連携など、長期的対応が必要
な課題があります。

また、新型コロナウイルス
にかかる対応では、これまで
日常的に行っていた教育活動

が制限され、取組のねらいの
明確化と運営の工夫が迫られ
るとともに、「学校の新しい
生活様式」による保健管理体
制の整備が必要不可欠となり
ました。加えて学習指導要領
が全面实施となり、その確実
な実施とともに、ICT環境
の整備にあわせて、「個別最
適な学び」と「協働的な学
び」の一体的な充実が求めら
れております。

その他にも、いじめ・学校
不適応問題の解消など、学校
は、複雑化・多様化した課題
を解決していかなければなり
ません。

このようなことから、学校
は、全ての子どもたちにとつ
て安心して楽しく、魅力的であ
り、一人一人の可能性を伸ば
し、夢を育む場であることが
ますます重要になっていると
思われます。

今春、開校した紫波町立西
の杜小学校の開校記念式で
は、児童代表の青山ひなたさ
んが、「希望をもち、未来へ

進んでいく。古里を学び、大
切にする。」と力強い誓いを
述べたと、お聞きしました。

このような子どもたちの思
いを育んでいくため、私たち
は、震災以来、会員の総意と
して大切にしてきた「明日を
拓く 岩手の絆」をしつかり
と心に刻み、先が見えない状
況であるからこそ、先達の教
えや震災等を通した学びを、
確かな教育的視座として継承
するとともに、会員相互の情
報共有、連携を大切にし、創
意に富んだ取組を推進してい
くことを、ここに誓い合いた
いと存じます。

結びに、本日の総会の開催
に当たり、多大なご協力をい
ただきました岩手県教育委員
会、並びに県内市町村教育委
員会、また、総会の運営にご
尽力いただきました盛岡市校
長会の皆様に対しまして、深
く感謝申し上げます。

祝辞(要旨)

岩手県教育委員会

教育長 佐藤 博様


 岩手県小学校
 長会定期総会
 の開催にあたり、県教育委

員会を代表し、一言お祝いを申し上げます。

まずもって、校長先生方には、各学校の最高責任者として日々学校経営に御尽力いただいていることに對し、心から感謝を申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、これまで経験したことのない対応を迫られながら教育活動を行ってきたことと思いますが、そのような中でも、校長先生のリーダーシップのもと教職員一丸となつて、感染症対策で様々な配慮を行いながら、子どもたちの学びの保障に向けて取り組んでいたにしていることに重ねて感謝申し上げます。

さて、東日本大震災津波の発生から十年となりました。今日まで、校長先生方には各学校の中心となつて、各地域や本県教育の復興と発展に向け、献身的に取り組んでいただいております。このような学びの場の復興を支えてこられた小学校長会の皆様の御尽力に對し、心からの敬意を表します。

本年度、新たに校長の職に就かれた皆様には、本県の教育に新しい風を吹き込み、熱意と創造性をもって、教職員等との相互理解に努めつつ、学校経営に思う存分力を発揮されますよう御期待申し上げます。

県では、「いわて県民計画(二〇一九～二〇二八)」と「岩手県教育振興計画」が三年目を迎えます。

これらの計画の推進に当たっては、子どもたちが、地域とともにある学校において自ら生き生きと学び、夢を持ち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付けていることを目指す姿としております。

各学校においては、「岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進」をはじめとした三つの視点を大事にしなが、教育活動を通して、学ぶことの意義や協力することの大切さなど、人間としての基礎・基本をしつかりと培い、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた社会を創造する能力を育てる人間形成に、引き続き御尽力いただきたいと思っています。

また、本年一月の中央教育審議会答申で示された「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、GIGAスクール構想で整備したI

CT機器の活用は不可欠となります。これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、様々な課題を解決し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくために、各学校が校長先生方のリーダーシップのもと、一枚岩となつて取り組んでいただくことをご期待申し上げます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

今後とも、岩手の子どものためのより一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げます、あわせて、県小学校長会のますますの発展を御祈念申し上げます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

校長先生方には、不易の教育基盤を守りつつ、時代に即した創造的変革の視点をもち、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

す。しかしながら、働き方改革に応じた業務の改善や教職員の健康確保、感染症対策と質の高い教育活動との両立など、教育や学校を取り巻く状況は、大きく変化し、多様さを増しております。
 こうした中で、私たちがなすべきことは、保護者や地域の信頼に応える確かな教育を実現し、子どもたちに、生きる力を育むことでもあります。校長先生方におかれましては、教職員一人一人が、教育に携わっていることに責任と誇りを持ち、豊かな人間性と、深い専門性を發揮して、教育活動に邁進するとともに、子どもたちが将来に向かって自己実現が果たされるよう、一層の指導をお願いするものであります。
 教育現場が直面する様々な課題に對して、大いに指導力を發揮していただき、保護者や地域に開かれた学校経営を推進し、学校・家庭・地域が協力して、明るく、心身ともに健やかな子どもたちの育成に御尽力いただきたいと存じます。
 結びに、本会のますますの発展と、皆様方の一層の御活躍と御健勝を祈念し、祝辞といたします。



教職員の定期人事異動等の状況について

教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長
金野 治 様

- 1 人事関係の概略 () 内は昨年度比 異動総数は1,303名 (-114)
- (1) 管理職 校長昇任 74名 (-19) 副校長昇任 82名 (+6)
女性管理職 校長 小学校66名、中学校 9名、義務教育学校0名:
全体の17.0%
副校長 小学校93名、中学校20名、義務教育学校2名:全体の26.1%
- (2) 新採用 小学校教諭141名・中学校教諭73名、養護教諭27名、栄養教諭1名 (-6名)
- (3) 再任用 358名 (29時間 157名、フルタイム 201名) (+23名) 来年度は400名を越える
- 2 少人数教育の推進について
少人数加配は減少しているが、代わりに専科加配が増加している。中央教育審議会答申では令和4年度を目途に、小学校高学年の教科担任制を本格的に導入すると提言している。
- 3 人材育成について
新規採用者の悩みに共感し、小さなできたを逃さず認め喜びをともにしながら自信を積み重ねていけるよう温かい指導を。
- 4 不祥事の未然防止について
飲酒運転は、昨年度は0件であったが、1年おきに発生しているため、今年度も職場内の取組の引き締めをお願いしたい。不適切な事務処理については、改めて所属長の職責を自覚の上、厳正な事務執行となるようお願いしたい。
- 5 働き方改革に関して
岩手県教職員働き方改革プラン2021—2023を策定し、学校における働き方改革の実現に向けた取組を一層強力に推進する。教職員がワークライフバランスを確保しながら、授業や授業準備等に集中し、健康で生き生きとやりがいをもって子どもたち一人一人に向き合うことができる時間を確保していけるようにすることをねらう。

本県の義務教育行政の
現状と課題について学校教育室首席指導主
事兼義務教育課長
三浦 隆 様一 学校教
育指導指針
について

第一期アクションプランに基づき、県民の幸福を追求していく施策を展開している。学校教育の主体は子どもたちであることから、県教育委員会の指標は、児童生徒の姿を中心に設定されている。

・「授業内で学習を振り返っている」「つまづきに対応した授業改善が行われている」などの項目は、高い数値が示されており、先生方が日々の授業改善に積極的に取り組んでいる成果と捉えている。

・「幼保小の円滑な連携の取組」などの項目は、目標値を100%と設定している。これは、「学校の割合」を示す指標であり、各校でしっかり取り組むことを期待している。男女混合名簿の使用についての指標も設定している。ジェンダー平等の意識が一層高まってきている。

ることからも、各校での検討をお願いしたい。

二 新学習指導要領に基づいた教育課程の「指導と評価の一体化」について
学習指導要領が全面実施となるが、コロナのため「評価」についての研修は一年遅れとなっている。国で示した参考資料を基に、「ハンドブック」を作成し各校に配付したので活用してほしい。

三 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用について
昨年度、コロナの影響でGIGAスクール構想が前倒しされ、一人一台端末の整備が進んでいる。納入が遅れている学校にも、今年度途中には全て整備される見通しである。

指導者側に経験がないため県では「いわて学びの改革事業」を進めており、県内指定校による先行実践を紹介するほか、教育センターでも今年度七十を超える研修講座を位置付け、研修の充実を図っている。

四 幼児教育センターの設置に向けた動向
就学前教育の一層の充実を目指し、県は令和四年度の「いわて幼児教育センター」設置に向けて、各関係機関と連携を図りながら

進めている。これは、教育委員会の所管する公立幼稚園はもとより、私立幼稚園、認定こども園、保育所を含めた研修体系の一本化を目指そうとするものである。

小学校、幼稚園、保育所との合同説明会や幼小接続研修会を進めていくので理解いただきたい。

終わりに
東日本大震災から十年が過ぎ、今またコロナ禍で各学校において子どもの命、安全を守るために、精一杯取り組んでいることに感謝している。

子どもたちの安心でできる日常は、学校にこそある。震災から一か月半後、被災地域で四月下旬の学校再開を果たした私たち岩手の教員には、その実感がある。

一方コロナ禍での学校生活には、さまざまな制約があるが、「何が大事か、本当に必要なことは何か」という本質を捉えたカリキュラム・マネジメントを大胆に実践した一年は、震災で教室も教科書も何もない中、工夫して教育に当たった本県教育の強みと言える。子どもたちの「幸福」「笑顔」を守り育むため、学校と行政が手を携えて共に組んでいきたい。

大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以来、会員の英知と情熱を結集し、課題解決に主体的に取り組む、着実にその成果をあげてきた。私たちは、東日本大震災発災後の会員の総意「明日を拓く岩手の絆」を決して忘れることなく、校長としての使命と職責の重大さを深く自覚し、「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る」「日本人の育成」を目指すとともに、「いわての復興教育」の視点を踏まえた学校づくりを推進し、県民の信託に応える責務がある。ここに、岩手県小学校長会会員の総力を結集し、次の事項の実現に全力を傾注することを、第五十九回総会の総意をもって宣言する。

一 確かな経営理念のもと、「生きる力」を育み、社会に開かれた教育課程の編成と、着実に実施、評価、改善を行い、より一層創意に満ちた学校経営の充実を図る。

二 被災地区の学校運営上の諸課題を的確に把握し、震災後十年の経過を情報共有するとともに、震災の教訓を未来に語り継ぐ活動や、未来を担う「いつとつくり」を進めるため「いつとつくりの復興教育」を継続して推進する。

三 校長自ら研鑽に励むとともに、業務の改善による教育の質の向上を図り、郷土を愛し、主体的・協働的に学び、夢と未来を拓く子どもを育てる学校経営を積極的に推進する。

四 自己の命を大切にしながら共に生きる心を育成と人間尊重の精神に基づく生徒指導、特別支援教育の充実を図る。特別支援教育の充実を図る。調査研究及び必要活動の組織的に推進し、新型コロナウイルスに対応した教育改革、ICT化の推進など教育諸条件の改善・整備のための取組を推進する。

一 広報活動の充実と会員相互の情報交流に努めるとともに、関係諸機関、団体との連携強化を図る。

令和三年四月二十三日
第五十九回岩手県小学校長会総会

地区校長会研究交流

未来を拓き、ともに生きる豊かな
社会を創る子どもを育てる一関の教育

一関地区校長会

一 はじめに

一関地区では、令和元年度より、一関地方小学校長会、一関地方中学校長会、一関市校長会、平泉町校長会の四つの組織が一つとなり、一関地方校長会とし、一枚岩で取り組んでいます。令和三年度の一関地区は、一関市内に小学校が二十八校、中学校が十六校、平泉町内に小学校が二校、中学校が二校、あわせて四十七校となります。

一関地方校長会では、小学校と中学校の連携を密にしなから、岩手県小・中学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を基に、未来を拓く児童の育成のために、「主体的に生きる力」を育む研究の推進にあたっています。

毎年、一月に開催される「一関地方小・中学校長研究発表大会」では、小学校三部会、

中学校一部会の研究について発表し、交流を図っています。

また、令和元年からのコロナ禍にあつては、各校の情報交流や校長間の意見交流を密に行い、より一層連携を深めています。

二 研修計画の概要

本年度の一関地方校長会小学校部会の研修は、次のような方針で進めていきます。

・教育専門職としての資質を高めるとともに、学校経営者としての資質・能力を一層錬磨する。

・岩手県小学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を基に新しい教育の創造に確かな識見と展望をもって、研究を推進する。

・研究にあたっては、六つの研修班構成で行う。
・研究の成果は研究報告書に

まとめ、次年度以降の研究に資するとともに、本会主催の研究発表会において発表し、研究成果を共有する。
・会員は、定例研修会、班別研修会、各種研究大会への参加を通して、研究の充実を図る。

三 研究部会の構成の概要

今年度の研究部会構成（小学校六部会）と主題は次のようになっています。

第一部会（評価・改善）

○教育の質の向上をめざした学校評価（三年次・最終）
〔東北連小福島大会発表予定〕

第二部会（知性・創造）

○知性と創造性を育む教育課程と校長の在り方

第三部会（教育課程）

※「豊かな人間性」の分科会に移行し新テーマのもとで研究を進める。

第四部会（学校経営）

※「評価・改善」の分科会に移行し新テーマのもとで研究を進める

第五部会（経営、組織・運営）

○学校経営ビジョンの実現に向けた学校経営
第六部会（教育課程）

※「健やかな体」の分科会に移行し新テーマのもとで研究を進める。

四 県大会発表概要

昨年度の県花巻大会は、紙面開催となりましたが、一関地区からは、「教育課題領域」で、二つの部会が発表しましたので、概要を紹介します。

教育課題領域

「社会との連携・協働」

◆研究主題

「子どもの学びをつなぐ教育活動の推進と校長の役割」
「異校種の連携と円滑な接続を目指して」

◆研究のねらい

各校種間の連携の実態を把握・整理し、課題を明確にしなが、それぞれの校種間の連携・接続の在り方について校長の果たすべき役割を明らかにする。

◆研究内容と方法

○異校種間連携について、幼児・児童生徒・教職員へのアンケートの実施、集計、分析

○研究成果を生かした幼小、小中の連携に関する実践
○校長の役割の考察と提言

「自立と社会性」

◆研究主題

「自立と社会参加を図る教育の推進」各校の特別支援教育の充実に向けて校長の果たすべき役割と指導性」

◆研究のねらい

自立や社会参加を図る特別支援教育の推進にあたり、全校的体制の構築、個別の指導計画・教育支援計画の作成・活用、教職員の専門性の向上、家庭・地域や関係機関との連携など校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

◆研究内容と方法

○アンケートによる各校の実態や課題の把握
○課題解決に向けた実践交流と校長の役割の分析・考察
○校長の役割の確認

五 おわりに

今年度の東北連小福島大会では、一関地区の小学校部会に「学校経営部会」（評価・改善）の発表が予定されています。たくさんのご意見ご助言をどうぞよろしくお願いいたします。

（一関市立老松小学校

森 和佳子）

○本校の実態

児童の教育を直接司る担任の平均年齢が四十九・九歳であり、五十代ベテランが担任の大半を占めている状況である。メリットは、豊富な経験に基づいた学級経営が可能であること、デメリットは、前例踏襲が多く、新しい教育課題への取組が遅くなりがちなことなどがあげられる。

このような教員構成の中で、急激に変化する社会にあって、児童一人一人がこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにするために、本校では令和元年度より「主体的・協働的に学ぶ児童の育成」を研究主題にし、算数科を中心に研究を進めてきた。しかし、課題として

- ①児童自身が交流する必然性やよさを実感できていない。
- ②児童が相手の考えを受け入れてどう判断するか分からないなど、交流が発展しない。

③指導過程がほぼ変わらず、改善が見えない。

この解決のために、まず教師側の授業観の転換が必要と考えた。協働的な学びを、ペア、グループ学習等の形を作るのみであったり、全て児童に任せておいたりする授業ではないことを確認した。そのために必要なこととして、全ての児童が交流の土俵に乗れるような温かい雰囲気づくりが基盤となることを共通理解を図った上で、今年度の研究をスタートさせた。

○基本的指導過程のみの授業からの脱却

本校で長年当たり前に繰り返してきた算数科の基本的指導過程を見直す必要性を研究会で提案した。これまで、本校の算数科における基本的な授業の流れである「問題提示、課題設定、見直し、自力解決、ペア又はグループによる協働解決、習熟、まとめ」という過程を経るのが当たり前になっていて、授業研究会

でも、この過程の必要性を検討するわけでもなく、ただ、児童の対話的、協働的な学びの場が保障されていたか、それが実効性のあるものだったかに焦点を当てた検討が行われてきた。

新たな教育課題への対応

今までどおりは後退です
～授業改善・指導過程の見直しを通して～

和賀地区(飯豊小の実践から)

かった。

そこで、今年度はこの過程を見直すことにも取り組み、児童の協働的な学びの実効性を上げることを研究の重点とすることにした。

○児童が安心して学ぶための飯豊スタンダード

以前から全校で実践していた「飯豊スタンダード」を「学校・学級づくり」「環境づくり」「授業づくり」の三つの観点で見直し、落着いて

た学習ができる雰囲気づくりに全校で取り組むこととした。(資料1参照) 三か月に一度自己評価を行い、学年会で様子について確認し、課題を共有する。

今更という声が聞こえそうな浅薄な実践であるが、今年の本校の合言葉を「見せましよう、昭和の底力を」として、ベテラン勢が取り組み始めています。

(北上市立飯豊小学校 藤田 知也)

(1) 全ての児童にとって安心して学ぶための飯豊スタンダードの実践

項 目		自己評価 (◎、○、△で)			
		6月	10月	12月	2月
学校・学級づくり	お互いを認め合う人間関係、温かい雰囲気 の学級になっている。 (ネガティブストロークはない。)				
	ルール (児童の姿の明確化)				
環境づくり	挨拶がしっかりとできている。				
	廊下を正しく歩いている。				
	施設・設備を正しく使っている。				
	給食・清掃などの手順が分かり、しっかりとできている。(身支度も)				
授業づくり	物の置き場、置き方が決まっている。				
	教室内が整理整頓されている。				
	掲示物が精選され、すっきりしている。				
	始まりと終わりの時刻を守った授業ができている。				
	活動の終わりの見通しを示している。				
	集中したことを確認した上で発問・指示・説明をしている。				
	短く具体的な指示・説明をしている。 (長く話していない。)				
	発問・指示・説明後に分かっているか確認している。				
	言葉だけではなく、アイコンタクトや動作を活用している。				
	音声・声量・抑揚・スピードを調整して話している。(いつも同じ話し方ではない。)				

資料1 飯豊スタンダード

令和3年度

岩手県小学校長会役員

会 長（1名）

盛岡地区 盛岡市立仁王小学校長 小山田秀次

副 会 長（4名）

盛岡地区 盛岡市立仙北小学校長 遠藤 耕生

和賀地区 北上市立黒沢尻北小学校長 船田 浩

胆江地区 奥州市立江刺愛宕小学校長 千葉 栄

久慈地区 洋野町立種市小学校長 山下 秋雄

会計監事（3名）

遠野地区 遠野市立上郷小学校長 関口 一二

気仙地区 大船渡市立綾里小学校長 熊谷 賢

二戸地区 二戸市立仁左平小学校長 馬淵 千加

常任理事（5名）

総 務 部 盛岡市立桜城小学校長 紺野 好弘

行財政部 盛岡市立生出小学校長 佐藤 淳

研 修 部 盛岡市立山王小学校長 後藤 敏信

広報・編集部 盛岡市立好摩小学校長 吉田久美子

生徒指導部 盛岡市立上田小学校長 和田 英

事 務 局（3名）

事務局長 紺野 好弘

常勤書記 石亀 智美

非常勤書記 山戸美智子

理 事

評議員

地 区 名	学 校 名	理 事 氏 名	学 校 名	評 議 員 氏 名	学 校 名	評 議 員 氏 名
盛 岡	山 岸	真 壁 信 義	城 南	荒 川 享 司	北 厨 川	平 井 良 明
			緑 が 丘	阿 部 真 一		
岩 手	滝沢第二	安 倍 哲 矢	西 山	菊 池 春 夫	田 頭	中軽米 利 夫
紫 波	赤 沢	星 川 明 宏	徳 田	小 川 祐 史		
花 巻	笹間第一	高 橋 昌 克	東 和	太 田 孝 之		
遠 野	遠 野	細 川 昭 子	綾 織	平 芳 則		
和 賀	黒沢尻北	船 田 浩	黒沢尻西	八重樫 浩 二		
胆 江	江刺愛宕	千 葉 栄	真 城	石 川 悦 也	金 ケ 崎	小 原 竜 二
一 関	山 目	小 山 祐 二	赤 荻	小野寺 浩 之	大 東	及 川 輝 美
気 仙	盛	大和田 典 明	越 喜 来	遠 藤 芳 幸	広 田	小 林 京 子
釜 石	白 山	熊 谷 直 樹	小 佐 野	千 葉 裕 之		
宮 古	宮 古	佐 藤 和 男	千 徳	佐々木 優	船 越	多 田 敢
久 慈	種 市	山 下 秋 雄	久 慈	向折戸 博 昭	普 代	小 関 稔
二 戸	福 岡	吉 度 康 男	金 田 一	菅 原 佳 子	伊 保 内	立 花 淳

専門部担当理事・専門委員等

(◎は部長)

総務部担当理事 (6名)

真壁 信義 (盛岡・山岸)
船田 浩 (和賀・黒沢尻北)
千葉 栄 (胆江・江刺愛宕)
山下 秋雄 (久慈・種市)
遠藤 耕生 (盛岡・仙北)
◎紺野 好弘 (盛岡・桜城)

行財政部担当理事 (3名)

熊谷 直樹 (釜石・白山)
吉度 康男 (二戸・福岡)
◎佐藤 淳 (盛岡・生出)

研修部担当理事 (3名)

高橋 昌克 (花巻・笹間第一)
大和田典明 (気仙・盛)
◎後藤 敏信 (盛岡・山王)

広報・編集部担当理事 (4名)

安倍 哲矢 (岩手・滝沢第二)
星川 明宏 (紫波・赤沢)
細川 昭子 (遠野・遠野)
◎吉田久美子 (盛岡・好摩)

生徒指導部担当理事 (3名)

小山 祐二 (一関・山目)
佐藤 和男 (宮古・宮古)
◎和田 英 (盛岡・上田)

行財政対策委員 (5名)

北田 光志 (盛岡・土淵)

吉田 信一 (盛岡・杜陵)
吉田竜二郎 (盛岡・中野)
佐藤あい子 (盛岡・高松)
中村 悟史 (盛岡・永井)

調査研究委員 (6名)

加藤 良 (盛岡・本宮)
鎌田 達也 (盛岡・河北)
阿部 真一 (盛岡・緑が丘)
鈴木 敏彦 (盛岡・見前)
伊藤 博之 (盛岡・見前南)
小川口郁子 (盛岡・玉山)

広報・編集委員 (5名)

佐々木 勉 (盛岡・厨川)
後藤 良子 (盛岡・松園)
及川 一也 (盛岡・羽場)
今野 洋明 (盛岡・手代森)
早野 聡 (盛岡・巻堀)

生徒指導委員 (5名)

藤村 一夫 (盛岡・太田東)
佐々木 満 (盛岡・青山)
松井 繁紀 (盛岡・月が丘)
宮野 光一 (盛岡・飯岡)
八幡美奈子 (盛岡・北松園)

全連小理事 (2名)

小山田秀次 (盛岡・仁王)
紺野 好弘 (盛岡・桜城)

全連小監事 (1名)

遠藤 耕生 (盛岡・仙北)

全連小教育課題委員会 (1名)

和田 英 (盛岡・上田)

全連小各部担当者 (3名)

- (1) 対策担当者
佐藤 淳 (盛岡・生出)
- (2) 調査研究担当者
後藤 敏信 (盛岡・山王)
- (3) 広報担当者
吉田久美子 (盛岡・好摩)

全連小総会代議員 (3名)

小山 祐二 (一関・山目)
遠藤 芳幸 (気仙・越喜来)
熊谷 直樹 (釜石・白山)

東北連小理事 (2名)

小山田秀次 (盛岡・仁王)
遠藤 耕生 (盛岡・仙北)

東北連小委員 (2名)

- (1) 教育課程委員
後藤 敏信 (盛岡・山王)
- (2) 対策委員
佐藤 淳 (盛岡・生出)



広報・編集部合同会議



研修部合同会議



総務部合同会議

編集後記

総会において、会長に選出された小山田秀次会長は、「先が見えない状況であるからこそ、先達の教えや震災等を通して学びを確かな教育的視座として継承すること、会員相互の情報共有、連携を大切に、創意に富んだ取組を推進していくことを誓い合いたい」と、力強く呼びかけました。

また、佐藤博教育長は祝辞の中で、「令和の日本型学校教育を構築し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、GIGAスクール構想で整備したICT機器の活用は不可欠となる」と述べ、私たちが一枚岩となつて授業改善に取り組むことを期待されました。

東日本大震災から十年の歳月が経った今、これまで本県が取り組んできたことを振り返って成果を共有するとともに、新たな教育課題への対応について、各学校の実情に応じた取組を、会員相互により一層心を合わせ推進してまいりたいと思います。

(担当 吉田 久美子)